

VI

創立50周年
記念事業

記念式典

日時 平成22年6月11日
場所 北見工業大学講堂



鮎田耕一学長挨拶



鮎田耕一学長挨拶



北見工業大学航空部によるモータグライダーのデモンストレーション飛行



北見工業大学学生合唱団による大学学生歌の合唱

記念祝賀会

日時 平成22年6月11日
場所 ホテル黒部 富士の間



同窓会会長富田剛夫氏挨拶



厚谷郁夫元学長挨拶



室蘭工業大学長佐藤一彦氏挨拶



帯広畜産大学長長澤秀行氏挨拶



祝賀会会場



常本秀幸前学長挨拶



平林眞元学長挨拶



衆議院議員武部勤氏挨拶



鮎田耕一学長挨拶



鏡開き

祝辞



文部科学事務次官
坂田東一

このたび、北見工業大学が、創立50周年の佳き日を迎えられることを心よりお祝い申し上げます。

北見工業大学は、昭和35年に設置された北見工業短期大学を母体とし、昭和41年に、新たに4年制大学として発足して以来、これまでに多くの有意な人材を輩出し、輝かしい学術研究の成果を残してこられました。

近年においては、極東ロシアの研究機関との連携による環オホーツク圏の環境研究の展開や、本年度の医療工学専攻など、学部・大学院を通じ、科学技術の進展や社会的要請を踏まえた教育・研究体制の整備充実を図りつつ、着実に教育・研究に取り組んでおられます。

これらは、鮎田学長をはじめとする歴代の学長、教職員、卒

業生の皆様、大学を支援してこられた数多くの皆様方の御尽力の賜物であり、関係各位のこれまでの御貢献に心から敬意を表します。

国立大学法人は、社会のグローバル化が進む今日、人材養成及び学術研究の両面において、時代の要請や国民の期待に的確に応え、知的基盤社会における知の拠点として、これまで以上にその特色を活かし、自らの役割を存分に果たしていくことが求められています。

北見工業大学におかれましては、これまでの良き伝統を受け継ぎつつ、教育理念である「人を育て、科学技術を広め、地域に輝き、未来を拓く」に基づき、最北に位置する国立大学として、その立地特性を活かした独創的な教育・研究の展開や、地域貢献、国際化の推進に一層取り組まれますことを期待しております。

結びに、本日御臨席の皆様方におかれましては、引き続き北見工業大学に対し、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、北見工業大学のますますの御発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。



北見市長
小谷每彦

国立大学法人北見工業大学の創立50周年記念式典がご来賓の皆様をはじめ、多くのご列席のもと盛大に開催されますことに、心からお祝いを申し上げます。

さて、本学は、地域から大きな期待を受け、昭和35年、北見工業短期大学として開学し、昭和41年に4年制大学となり、その後拡大・拡充を重ねながら、常に地域をリードし、地域とともに発展してこられました。幅広い専門知識と国際的な広い視野、豊かな人間性を身に付けた人材を多数輩出され、多くの卒業生が全国各地で活躍されており、半世紀にわたり地域に密着した大学として市民の皆様から絶大な信頼を受け、北海道内における工科系教育・研究機関として確固たる基盤を築いてこられました。これもひとえに、歴代学長をはじめ、教職員、先輩諸氏、関係各位の限りない教育に対する情熱とたゆまぬ努力

の賜物であり、そのご功績に対して心から敬意を表します。

また、本学は、「科学技術を広め、地域に輝き、未来を拓く」という教育理念のもと、学生の個性や能力を活かし、真摯な研究心、向上心を培い、複雑多様化する昨今の社会情勢に柔軟に対応できる人材の育成に努められております。このことは、オホーツク圏の中核都市としての都市機能の充実を図り、個性と活力に満ちたまちづくりを進めております本市にとりましても大きな財産の一つであると考えております。さらには、地元企業や行政との連携による新たなシステムの研究・開発に積極的に取り組まれており、当市の産業・経済の発展にも大きく貢献されております。当市の未来を考えたとき、大学・企業・行政が互いに手を携えることが不可欠であり、本学の役割は、ますます重要になってくるものと確信しております。どうか今後におきましても、更なる発展に向け、より一層のご尽力を賜りますようお願いいたします。

結びにあたりまして、本日ご臨席の皆様のご健勝とご多幸と、国立大学法人北見工業大学の更なるご発展を心より祈念申し上げます、お祝いの言葉と致します。



北海道大学総長
佐伯 浩

本日ここに、栄えある北見工業大学創立50周年記念式典に臨み、北海道大学を代表いたしまして一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

北見工業大学は、昭和35年に北見工業短期大学として設立され、その後、現在の4年制の北見工業大学となり、北海道はもとより日本における工学教育の先駆けとなる工学や技術水準の向上を目指し、大学関係者のみならず、地域住民からも大きな期待を担って開学されたものであります。

その後も、建学精神のもとに地域に根差した工学系大学として発展を続け、高い倫理観と豊かな人間性を持つ優れた技術者等を数多く養成され、その先人達の活動を通して社会との連携を深め、日本の工業界の発展充実に多大な貢献をされてこられましたことは、周囲の皆様が一致して認めるところでございます。

これは、大学創設以来、幾多の困難を克服し、教育・研究、及び管理運営に携わって来られた歴代学長をはじめ教職員各位

のご努力によるものと、深く敬意を表するものであります。

現在、我が国は、他に類を見ない高齢化社会への移行や、全ての分野での国際化の進行、そして、金融問題などから端を発した景気の減退など様々な問題と直面しておりますが、高等教育機関においてもこれらの環境の変化に柔軟に対応するとともに、更なる変革と発展が求められております。

また、国立大学の法人化に伴い、私どもは、国立大学法人が担う役割については、自主・自律を基本とした大学運営体制を構築し、その運営の効率性を高めていくことが重要です。

また、教育・研究環境を質的に向上させるとともに、真に学生のためとなる教育と世界水準の多様な研究の展開をはかることにより、有為な人材を育成するとともに、世界的な競争力を持ち、地域に貢献する大学として個性輝く大学を作り上げていくことが強く要請されていると認識しております。

どうか北見工業大学関係各位におかれましては、今日の記念すべき日を契機に、これまで、50年間に亘って築き上げて来られた光輝ある歴史と伝統を基盤に、更に豊かな業績を積み重ね、これからも社会の要望に応え得る優秀な人材育成と、社会に開かれた現代的工学教育の拠点として、また、地域の産学連携の拠点として一層御尽力されますようお願いしてやみません。

重ねて、北見工業大学の益々の発展を祈念してお祝いの言葉といたします。



北見商工会議所会頭
永田正記

1960年、国立学校設置法の一部を改正する法律により、北見工業短期大学が設立、機械科、応用化学科が創立されスタートしまして、本年で50周年を迎えることに成りました。

開学当時の北見市は、人口7万人程度の商業と農業を中心とした地方都市でありました。短期大学とはいえ国立の大学が設置されるという事は、前例の無いことであったと思います。しかし、当時の伊谷北見市長は、建設資金と必要とする用地を国に寄付する事を議会で決定し、2年に亘り大学設置に向けた陳情を当時の大蔵省、文部省に繰り返し行い要望いたしました。その後ろ盾にいたのが東急コンツェルンを一代で築き上げた実業家五島慶太氏であり、それらの効果も相まって国立北見工業短期大学が実現したのであります。結果として、北網管内に東急グループが進出するきっかけとなり、50年に亘って北網経済圏の企業を牽引してこられました。この事は、国立北見工業大学が設立された事によって地域経済の広がりに結びついたのであります。

早50年を迎え、2学科80名での出発から現在は、工学部6学

科1936名、留学生12カ国47名にも及び大学院博士前期・後期課程261名、留学生22名、特別聴講学生19名はすべて留学生であり、1万4500名の卒業生、留学生の卒業者は200名と設立当時のことを考えますとここまで発展するとは想像できなかったことと思います。

また、北見工大開学が研究学園都市として北海学園北見大学・日本赤十字北海道看護大学と開学にいたる事の流れをつくり、研究学園都市の教育機関として重要な役割を担っておられます。

大学で学んだ卒業生や留学生はその成果を日本各地はもとより世界各国で多方面にわたり、環境問題や経済の発展の為に貢献されております。特に寒冷地工学の分野では、30年前より南極観測隊に教員を送り出すなど、国内外における国内最北の国立大学法人としての北見工大の存在価値と意義を大きなものとしております。

更に、商工会議所が橋渡しをし、産学官による地域共同研究センターと地域の企業との共同研究を担って頂きました。又、大学の後援会「KITげんき会」を設立し、大学という大きな垣根を越えて地域の企業と市民が大学を利用しやすい環境を作り、地域と一体になった大学としての役割を果たして頂いている所でございます。

結びに、今後とも北見工業大学が北見市はもとより、道内外の地域発展の為に尽力されるようご期待し、お祝いの言葉と致します。

記念講演会

日時 平成22年6月20日

講演者 養老孟司氏（東京大学名誉教授）

場所 北見市民会館大ホール

演題 「脳の中に住む人間 ―ヒトを見る・自分を知る―」



役員との記念撮影

記念植樹

日時 平成22年5月13日
場所 北見工業大学構内

植樹 エゾヤマザクラ50本を植樹（苗木は北海道新聞社、北海道文化放送並びに道新文化センター主催の「北海道千本桜運動」より寄贈）



鮎田耕一学長

国際ワークショップ (International Workshop on Modern Science and Technology 2010)

日時 平成22年9月4日～5日 参加大学 ハルビン工程大学、武漢科技大学、電気通信大学、北見工業大学
場所 北見工業大学

